

# 碧い風

きらめきの地域デザイン

あおいかぜ

特集

未来につながるSDGs

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

97

2019 November

# 誰でも、いつからでも、音楽を楽しめる環境を プロデュースするピアニスト渡邊朋子さん

ピアニストとして幅広く演奏活動を続けながら、初心者でも気軽に通える三十分個人レッスンのピアノ教室「I Love Piano」を運営。これまでピアノに親しんでこなかった人たちにもすそ野を広げる、新しいスタイルの教室として注目されている。



profile

渡邊 朋子(わたなべ ともこ)

株式会社ワタナベミュージックラボ代表取締役社長

広島県出身。4歳よりピアニスト宮沢明子に師事し、1986年、『ベーゼンドルファーインベリアル国際ピアノコンクール(ヤングピアニスト部門)』にて最年少で優秀賞を受賞。翌年に米国へ留学。1989年に帰国後、日本大学芸術学部へ入学。これまでCDアルバム『ピアノワークス』、『ブルグミュラー 25の練習曲』、『ピアノワークス2』を発表したほか、ソロリサイタルを行う。幅広い演奏活動を通じてながら楽器店・音楽教室の代表として音楽のすそ野を広げる活動に取り組んでいる。

文：藤沢 享乃 (広島市在住) 写真撮影：芥川 博之 (広島県府中町在住)

## 誰でも気軽に楽しめる 音楽教室が原点

JR山陽本線三原駅から徒歩三分、ヤマハピアノの大きな看板が目立つワタナベミュージックラボ三原駅前センターは、コンサートホールを完備した音楽教室兼店舗だ。ここを拠点にプロのピアニストと代表取締役社長の二役をこなしているのが渡邊朋子さん。実家は祖父の代から続く楽器店で、現在、三原市を中心に広島、岡山両県内で二十五軒の音楽教室・英語教室を運営している。調律師の父と三原市で市民ミュージカルに尽力する母の間に生まれ、ピアニストらしい華やかさをまとっている。

しかし、渡邊さんは「ピアニストを目指そうとは全く考えていなかった」と語る。

「私の原点は、誰でも気軽に楽しめる音楽教室。私にとってピアノは空気のようにならざるを得ないものでした」

## ピアノは楽しむもの

四歳からピアノを習い、一九八六(昭和六十一)年には国際ピアノコンクールで優秀賞を受賞するなど、ピアノとともに人生を歩んできた。

ピアノが大好き——その思いだけ

でピアノと向き合っていた渡邊さんが違和感を覚えたのが、米国留学時だ。他人と競い合う厳しい世界で、いつしかピアノは優劣を競うための道具になっていった。「ピアノって、楽しいものじゃなかったの?」。帰国して日本大学芸術学部へ入学すると、その思いはさらに強まった。

そこで渡邊さんは、ソロピアニストとしてリサイタルを行いながら、ピアノの楽しさを再発見するよう新たな新しい活動を始める。電子オルガンとのアンサンブル「デュオシユリンクス」を結成し、各地で公演したこともその一つである。さらに、ナレーターなごうたの常田富士男氏や森本レオ氏の朗読とともにピアノを奏でる音楽物語のコンサートなどにも積極的に参加してきた。

## 会社を継ぎ、故郷に恩返しするため帰郷

東京を拠点に、大好きなピアノや音楽仲間と過ごす日々は本当に楽しかった。このまま自分の夢を追いかけていたいという思いもあった。しかし、一人っ子である渡邊さんは、祖父の代からのワタナベミュージックラボを継ぐために、三十代半ばで帰郷を決心。その決心の中には、自分を育ててくれた故郷に恩返しするなら、今かもしれないと

いう思いもあった。

「帰ってきた時は、自分に何ができるのかという迷いもありましたが、今は帰ってきて本当に良かったと思っています」

二〇〇八(平成二十)年に三原室内管弦楽団と協演したほか、東日本大震災後の二〇一二(平成二十四)年にはみはら震災復興支援チャリティー・ガラ公演に出演するなど、地元での活動を徐々に広げていった。

## 通いやすく、楽しさを重視した「I Love Piano」

故郷で演奏活動を続けながら、ワタナベミュージックラボの経営に参画し始めると、新しいビジネスモデルのアイデアが次々と湧いてきた。

その中で生まれたのが、二〇一五(平成二十七)年から始めた音楽教室「I Love Piano」である。

これまでワタナベミュージックラボで展開してきた「ヤマハ音楽教室」は、所定のカリキュラムに則って、生徒を指導する。ヤマハ音楽教室は今でも事業の一つだが、共働き世帯が増えて、子どものお稽古ごとのために毎週教室まで送り迎えができる家庭が減っている実情に合わせて、もっと便利で手軽に通える音楽教室をつくりたいと考えた。さらに、大人になってからピアノ

を弾きたいと思い始めた人、ピアノ教室は敷居が高いと思っている人も気軽に参加できるような音楽教室にしよう」と検討を重ねた。

「I Love Piano」では子どもコースと大人コースを設け、それぞれ個人レッスンは一回三十分。大人の個人レッスンは、楽譜が読めなくても参加でき、ポップスやジャズなど好きなジャンルの曲でレッスンを受けられる。昔ピアノを習っていたが途中で挫折してしまった経験者にも好評を得ている。

教室の立地にもこだわり、買い物の合間にも通えるように、ショッピングセンターやスーパーの中に教室を設けた。わずか五坪の教室は、一台のピアノと一人の先生がいるだけの空間。初心者でも萎縮することがないようにとの配慮から、マンツーマンレッスンのスタイルにした。一見、カフェのよう



音楽物語のコンサートで演奏する渡邊さん  
写真提供：株式会社ワタナベミュージックラボ

な外観のため、気軽に扉を開けられる。「コンテストに参加したり、教師などの資格を取りたいと思っている人は、音楽教室の養成コースに通えばいい。でも、ピアノを弾いてみたいけど一歩踏み出す勇気がないと思っている人が通える教室がこれまであまりなかったのです。そう迷っている人がいたら、ぜひ『I Love Piano』を訪ねてみてほしいです」

上手に弾けなくても、練習があまり

できなくても大丈夫。ピアノを愛する心さえあればOK——ピアノ教室の入門編のような教室だ。「I Love Piano」を始めるにあたり、既存の音楽教室の経営者からの反発が少なからずあったという。少子化で生徒数が減っている中で新しいタイプの教室ができたなら、生徒の奪い合いになっ

てしまうかと危惧してのことだ。渡邊さんは、そうした経営者のもとに自ら出て、理解を求めた。

開校後、集まった

生徒は、母親が買い物をしている間にレッスンを受ける幼児や、仕事帰りに立ち寄る会社員などさまざまで、男性も意外に多いという。

また、音楽大学出身で子育て中の女性が、特技を生かしながら、子育てに支障のない範囲で働けそうだと、ピアノの先生に応募するケースも多い。このように、生徒だけでなく、先生となる人の音楽生活にも彩りを添えている。「I Love Piano」は、二〇一八年第二回中国地域女性ビジネスプランコンテスト(SOERU)で優秀賞(中国经济連合会会長賞)を受賞した。生活

の中心の場所であるスーパーマーケット内に教室を設置し、幅広い年齢層をターゲットにして音楽の一般化を目指していることが高く評価された。

現在、十教室あり、目標は一〇〇教

室。「I Love Piano」は立地が重要なため、好条件の物件を探すのが難しいうだが、最近では他店との違いを出そうとスーパーの事業者から「うちの店舗に教室を開いてくれないか」と声がかかるようになったという。

## ピアノを弾く場所を超え、幸せを提案する場に

「I Love Piano」で渡邊さんが目指しているのは、来るだけで幸せになれるピアノ教室だ。

「楽しいもの、美しいものなどは人を幸せにするため、積極的に取り入れています」

社内でも、「楽しい・うれしい・だいき・ありがたう・幸せ」を合言葉に、明るくハッピーな社風に磨きをかけている。

今後は、ピアノ教室の枠を超え、幅広い視点から人々を幸せにする場を作っていきたいと話す。

「今、世の中はこれまでの常識や従来の枠組みが変わるタイミングに来ているように思います。今後は、ピアノ教室でありながらも、単なる『ピアノを弾く場所』を超えて、異業種とのコラボレーションを視野に入れながら、幸せを提案する場として展開していきたいと思っています」



土木業の仕事で定年退職後、ずっと憧れていたピアノを習いたいと、I Love Pianoに通い始めた60代の男性。賛美歌「アメイジング・グレイス」を練習している  
写真提供:株式会社ワタナベミュージックラボ



孫2人と祖母と一緒に通うケースも。ピアノを囲んでにぎやかな場が生まれている  
写真提供:株式会社ワタナベミュージックラボ



スーパーマーケットの中に併設された音楽教室「I Love Piano」



コンサートホールを完備した音楽教室兼店舗のワタナベミュージックラボ三原駅前センター

藤沢 享乃(ふじさわゆきの)  
鹿児島県生まれ。ライター、よつば編集広告事務所代表。大学を卒業後、出版社を経て広島県でフリーライターに。現在は、ライター仲間と設立したよつば編集広告事務所を拠点に、地域に根差した記事を執筆している。